

小松電機産業株式会社



代表取締役 小松 昭夫 氏

会社概要

松江市乃木福富町 735-188

TEL 050-3161-2490

<http://www.komatsuelec.co.jp>

- 設 立 1981年
- 資 本 金 1億円
- 従 業 員 90名
- 事業内容 シートシャッター、クラウド総合水管理システム

☆「縁」は、時と場所と共感、イノベーションから「念」 に進化したときに生まれる

～事業内容について～

シートシャッター「門番」と、クラウド総合水管理システム「やくも水神」、人間自然科学研究所の3つの事業展開をしています。会社員時代は農業用機械のエンジニアでした。農機とは、自然と人と科学という相矛盾する性質を技術によって両立（新結合）させる最たるものであり、ここから学んだことは非常に多く、今日に通じています。創業当初は、農業用のポンプ修理等の事業から始めました。1988年には中国地方で初めて全自動のFMSラインを導入、門番とともに、後に「やくも水神」へ発展する水道計装事業を手がけ、生産性を飛躍的に高め、差別化を図りました。

官需と民需のバランスを考え、景気変動に強い体制構築を心がけています。「門番」は従来の鋼製シャッターの10～20倍のスピード開閉が可能で、省エネと衛生上の利点から食品、化粧品、自動車、精密機器や印刷工場等の民間企業に主に使っていただいています。今はhappygate門番システムとして、新たな市場が生まれようとしています。

「やくも水神」は役場の中央監視装置を無くして、それをはるかに上回る機能をスマートフォンやタブレット端末で実現し、上下水道、農業集落排水、簡易水道、消雪、雨

水、温泉水などあらゆる水関連施設を管理制御できるシステムとして、2000年に沖縄サミットで発表された森喜朗内閣の e-Japan 構想にあわせて全国展開を始めました。全国314の自治体、7000超の施設で採用頂いています。11年前に、当時はまだ馴染みが薄かったコンピューター言語 Ruby を採用し、開発者のまつもとゆきひろさんとともにシステムを構築しました。

歴史という時間軸を含めたあらゆる社会問題を直視し、持続的に発展する「平和の事業化」に生かすべく、やくも水神や門番の実績をもとに人間自然科学研究所は25年間活動を続けています。

～人材活用の考え方、求める人材像について～

●「縁」は「念」に進化したときに生まれる

社是「社業を通じて社会に喜びの輪をひろげよう」を定めています。経営資源とは社会問題であり、それを科学的に考察、「社会、相手、自分」の「三方良し」になるように組み立て、「人、モノ、資金」を導入すれば、新たな市場を拓くことができます。

「縁」は「想い」の共感と時代と場所、それにイノベーションが加わって、「念」に進化したときに生まれます。チャンスを逃さないためには、常にアンテナを出して張り巡らせて、行動を起こすタイミングを判断する感覚を研ぎ澄ませておく必要があります。

●置かれた状況を活かし、持続するには

社員には実践の中で、こうした感覚を身につけて成長して行ってほしいと願っています。チャンスを掴むためにも、「人間力」を高める研修を社外の方とともに継続して開催しています。

人間は飽きやすい性質なので、楽しまなければ継続は難しい。生きる目的と、目標が結びつき、それが持続する秘訣は、「楽しんで行うこと」です。教養と芸術に親しみ、ユーモアの心が重要だと感じています。その思いから、経営理念にも「おもしろ おかしく たのしく ゆかいに」とうたっています。

全社員が社是、経営理念、行動方針を意識しながら仕事に取り組むことで、更なる飛躍が出来ると考えています。

●リスクを恐れず、若い人にチャンスを与えることが重要

若手社員を中心にプロジェクトを組んで企画・開発を実践しています。ちょうど今、水の事業で培ったこれまでの技術・ノウハウ等を活用し、消融雪管理システム事業への展開を考えているところです。

リスクを恐れていては、新しい物を創り出したり、先に進むことは出来ません。アイデアは、実践の中から生まれると感じています。

●これからの時代は、「国際分業」が避けて通れない

国際分業には複数の者が同じ目的の下で役割分担をする必要があり、そのためには、物事について論理的に会話できる「多言語教育」が非常に重要となり、国際的なセンスも求められます。

当社では、社員 90 人のうち 4 名の外国人スタッフがいます。それぞれ、貿易（商取引）、資材、現場等の各部署の第一線で活躍しています。

韓国の KOMATSU KOREA では、留学生だった社員が 5 年ほど本社勤務で経験を積んだ後、10 人程の社員を統括する管理職として力を発揮しています。

●伝えたいことは、映像化する

社長のアイデアや考え等については、口頭での伝達や文章としてだけではなく、社員が「目で見て、音で聴くこと」により理解・吸収しやすいようになります。映像・録音化を積極的に進めることで、「会社の財産として継承していく」ことを心がけています。



□関連施策□

- ・ものづくり日本大賞 優秀賞（経済産業省）
- ・科学技術庁 第 54 回注目発明選定証
- ・ニュービジネス大賞 会長賞（一般社団法人東京ニュービジネス協議会）
- ・中小企業研究センター賞 [現グッドカンパニー大賞] 地区表彰 [現在優秀企業賞]（公益社団法人中小企業研究センター）